

池田草庵先生に学ぶ会「贈姪盛游京師別言」

令和七年一月十一日

(俊彦 左起子 梅井)

贈姪盛游京師別言 (二)

往矣汝盛、所託汝者、尚不止此、予歸山陰、以来、交友零落、聞見一無所加、而平生求道之志、幸無所喪、

読み

往け汝盛 汝に託する所は、尚此に止まらず。予山陰に帰って以来、交友零落、聞見一つも加わるところ無し、而るに平生道を求めるの志は、幸いにして喪う所無し、

言葉

矣 助辞 前の語を命令形にして訓読。者 「…は」 「…ものは」と読み主語を強調、 聞見 ブンケン 聞くこととみること 零落 レイラク 落ちぶれること 平生 ヘイゼイ ふだん

意味

往きなさい、盛之助よ、お前が身をよせる場所は、ここにとどまってはならない。私は山陰に帰ってより、交友は殆んどなくなり、見聞して得た知識は増えることはなかった。しかし私の普段からの人の道を求める意気込みは、幸にして失うことはなかった。

但是一起一伏、進退不常、獨自苦於心、

汝見子賛、宜以此相報告、而子賛近日之所得、汝審叩其説、

読み

但し是れ一起一伏 進退常ならず、独り自ら心に苦しむ。汝子賛にまみえ、宜しく此を以て相い報告すべし、而して子賛の近日の得る所を、汝審らかに其の説を叩き、

言葉

一起一伏Ⅱ 紆余曲折 起伏Ⅱ起きることと伏せること

進退Ⅱ進むことと退くこと 於心Ⅱオシン 心において

審Ⅱツマヒラカ 明らかにする 詳しく知る

叩Ⅱタタク 問う きわめる

意味

ただ起きていても寝ていても、自分の進退がどうなるのか分らない、ひとり自分で悩んでいる。おまえは、子賛（春日潜庵）に会い、このことをよく報告してくれ、そして子賛が最近学び得たところを、詳しくその説明を問うとよい。

來春帰山之時、以此示予、則窮居索莫之中、因得_ニ以相警發_一矣、是所待也、盛汝往矣、 天保申辰十一月廿六日夜、草庵子燈下書、

読み

来春山に帰るの時、此を以て予に示せ、則ち窮_{きゆうきよ}居索莫_{さくばく}の中、因って以って相警發を得るかな。是を待つ所なり。盛、汝は往け。 天保甲辰十一月二十六日夜、草庵子燈下で書く。

言葉

窮居Ⅱ（きゆうきよ） 貧乏ぐらし 田舎住まい

索莫Ⅱ（さくばく） ものさびしいさま

警發Ⅱケイハツ はつとさせる。 いましめて悟らせる。

相Ⅱたしかに、まさに

意味

来年の春帰郷した時、それを私に示してほしい。私のもの淋しいわび住いの中で、それによって啓發されるであろう。これが私の期待しているものである。 盛之助、汝、京へ往け。

天保甲辰（弘化元年）十一月二十六日夜 草庵燈火の元で書く

※頭注Ⅱ是歳元号を弘化に改める Ⅱ西暦一八四四 草庵32歳

